

# 11の農業高校が発表

日本農ク県大会  
東雲は「酒米」成果披露

10月に兵庫県内で開かれる「日本学校農業クラブ全国大会」プロジェクト発表会部門のリハーサルを兼ねた県大会が21、22の両日、丹波市の春日文化ホールとライブピアいちじまで開かれた。農業高校11校が出場し、日頃、各校が取り組むプロ

ジェクト活動の成果を発表した。全国大会は同クラブ連盟が主催し、「農業高校の甲子園」と呼ばれる。



酒米プロジェクトについて発表する篠山東雲高校の生徒  
＝丹波市春日町黒井で

過などを新聞記事風に表現したことを伝えた。今年度は、計約115軒を作付け。当面、倒伏や病害虫、雑草の程度などについて調査する。「コロナ禍で計画通りに実施できていないことが多いが、できることに生懸命取り組み、地域の人に元気になってほしい」とまとめた。

丹波新聞  
2021年7月29日

春日文化ホールでは、「生産・流通・経営」などの発表があった。篠山東雲高校は、米の6次産業化を検討した結果、酒造好適米に着眼した一連の取り組み「酒米プロジェクト」の数年がかりに及ぶ成果を披露した。酒米「五百万石」と新品種「Hyogo Sake 85」をそれぞれ栽培。地元の鳳鳴酒造に醸造してもらった清酒「鳳鳴田舎酒純米 東雲の穂」が出来上がるまでの過程を中心に説明。栽培方法の確立以外にも、酒米の流通や酒造会社の状況についても情報収集した。このほか、生徒が酒瓶の包装紙のデザインを考案し、プロジェクトの経